

レクチャー1

分詞についての基礎知識。

分詞とは、元々動詞だったものに、-ing や -ed をつけて、形容詞の働き(性質)も兼ね備えるようになった、つまり『「動詞」と「形容詞」の性質を"分かち"持つ"詞(ことば)"』という意味です。

-ing がついた分詞を「現在分詞」と呼び、-ed がついた分詞を「過去分詞」と呼びます。

※形容詞的機能のほかに、動詞と接続詞の機能を兼ねる分詞構文という用法もある(詳しくは後述)。

レクチャー2

分詞の用法(働き)。

(1)分詞の動詞的な用法(働き)。

上の説明の通り、分詞には動詞的な性質(働き)があります。この分詞の動詞的な性質(働き)については、中学校のときに学んだはずですが、具体的には以下のようなものでしたね。

① 「be動詞+現在分詞」という形で、進行形(～している最中だ)を作る

(ex) He is playing baseball at the park.

彼は公園で(今)野球をしています

② 「be動詞+過去分詞」という形で、受動態(～される)をつくる

(ex) He is loved by everybody. 彼はみんなから愛されている

③ 「have[had]+過去分詞」という形で、完了形をつくる

(ex) He has gone to America. 彼はアメリカに行ってしまった

(2)分詞の形容詞的な用法(働き)。

このような(動詞的な)用法以外にも分詞についてはしっかりおさえておかななくてはいけない用法があります。それが分詞の「形容詞(的)用法」です。

形容詞の基本的な働きは「名詞を修飾する」とこと、「補語になる」ことです。この2つの働きを、分詞もするというわけです。

ではさっそく具体的に、そのような形容詞的に使われる分詞の用法の特徴、注意すべきポイントを見ていくことにしましょう。

①(直前直後から)名詞を修飾する分詞。

まずは分詞が直前直後から名詞を修飾している例を、以下にいくつか挙げてみました。

(ex) The sleeping baby is my son. その寝ている赤ちゃんは私の息子です

The baby sleeping in the bed is my son.

ベッドで寝ている赤ちゃんは私の息子です

the broken window 壊れた窓

the window broken by the child その子供に壊された窓

例文のように、基本的に分詞が一語で名詞を修飾する場合には、前から名詞を修飾するのに対し、後ろに語句を伴って(全体で)名詞を修飾する場合には、後ろから名詞を修飾します。

會ただし、分詞が1語でも後ろから名詞を修飾する場合もある。これは以下のような決まり文句的な表現で多いと言える。

(ex) problems involved 関連する問題
the authorities concerned 関係当局
the parties concerned (関係)当事者

for the time being 当面の間、さしあたり

※「名詞+involved[concerned]」で、「関連する(した)」「問題となっている」。

ちなみに「concerned+名詞」となる場合は「心配そうな」、「involved+名詞」となる場合は「複雑な、入り組んだ」という意味にそれぞれなる。

(ex) a concerned look 心配そうな表情

an involved problem 複雑な問題

②補語になる分詞。

これも例文を見た方が早いでしょう

(ex) The story seems **exciting**. その話はおもしろそうだ

上の英文では「seem C:Cのように見える」の「C」に exciting という現在分詞が入っています。

(ex) I heard the song **sung** by her. 彼女によってその歌が歌われるのを聞いた

上の英文では「hear O C:OがCするを耳にする」の「C」に sung という過去分詞が入っています。

(3)文法問題における分詞の選び方の基本。

では、実際に文法問題で分詞が「名詞を修飾する」「補語になる」場合に、現在分詞・過去分詞どちらを選択すればいいのか、その見極め方を紹介しましょう。

①分詞が名詞を直前直後から修飾する場合。

その(修飾する)名詞に対して、

「～している」 【能動】

という意味関係で修飾をする場合、**現在分詞**を用います。

ただし、「-ing+名詞」となる場合の-ing、つまり現在分詞は、基本的に「自動詞」の現在分詞形である。

逆に、その名詞に対して、

「～(させ)られた」【受動(受身)】

という意味関係で修飾をする場合、**過去分詞**を用います。

① 他動詞の過去分詞形がこのような受け身の意味を持つ。自動詞の過去分詞が「～してしまった」という[完了]の意味を持つこともあるが、gone(行ってしまった)、fallen(落ちてしまった)、grown(大人になった、成長した)など、限られた動詞にのみ。

では、以下の問題で練習してみましょう。

1.The book (write) by Scuseki Natsume is interesting.

[角解言説] 「本」と「書く」の意味関係は受身(本は人によって書かれるもの)。したがってwrittenが正解。
このように英語は常に「人間中心に考える」ことが大切。

[訳] 「夏目漱石によって書かれたその本はおもしろい」

2.I will take the bus (leave) here in an hour.

[角解言説] 「バスが発券する」と能動の意味関係になるのでleavingが正解。

[訳] 「今から1時間後にここを出発するバスに乗ります」

3.The clothes (wear) by the young have dramatically changed.

[角解言説] 「洋服」と「着る」の関係は受身(服は人によって着られるもの)。したがってwornが正解。
wear-wore-worn: 「(衣服等を)身につける」

[訳] 「若者が着る服は劇的に変化した」

4.A (drown) man will catch at a straw.

[角解言説] drownは「溺れる」という意味。drownedとてしまうと「溺れ(死んで)しまった」という意味になってしまう(それでは「わら」をつかめない)。そこでdrowningとすれば「溺れかかっている」となり、意味が通じる(drowningが正解)。

[訳] 「溺れる者はわらをもつかむ」

②分詞が「SVC」や「SVOC」の「C」になる場合。

まず、「SVC」の「C」になっている場合は

①「S」と「C」が能動の意味関係(SはCする)になるなら、Cには現在分詞を用いる。

- ② 「S」と「C」が受動(受身)の意味関係(SはCされる)になるなら、Cには過去分詞を用いる。

次に「SVOC」の「C」になっている場合は

- ① 「O」と「C」が能動の意味関係(OはCする)になるなら、Cには現在分詞を用いる。
- ② 「O」と「C」が受動(受身)の意味関係(OはCされる)になるなら、Cには過去分詞を用いる。

意味関係(「受動(受身)」か「能動」か)を考える際、大事なポイントは「英語は常に人間中心にその意味関係を考える」、という点です。

では、以下の問題で練習してみましょう。

1. I found the dog (lie) on the sofa.

【角解言説】 Oである「犬」とCの「横たわる」の意味関係は能動(犬が横たわっている)。したがってlyingが正解。

find O(名) C(形・分): OはCだと思う、わかる

lie-lay-lain-lying: 横たわる

【訳尺】 「私はその犬がソファに横になっているのがわかった」

2. I saw him (knock) down by the man on the street.

【角解言説】 Oである「彼」とCの「殴り倒す」の意味関係は(knockの後ろに目的語がない。更に受身を表す前置詞のbyがある点からも)受身。したがってknockedが正解。

see O C: OがCするのを見る

knock A down: Aを殴って倒す

【訳尺】 「私は彼が通りでその男に殴り倒されるのを見た」

3. I am sorry to have kept you (wait).

【角解言説】 waitは「自動詞」で「待たれる」というような受身はない。故に「あなたが待っている状態のままにしておいた」と考える。

waitingが正解。「keep A(人) waiting: Aを待たせたままにしておく」で決まり文句として覚えてしまいたい。

【訳尺】 「お待たせしてすみません」

4.The man stood with his arms (fold).

【角評訳】 これは with O C「OがCの状態」という構文。この場合でもOとCの意味関係で考えればいい。「彼の腕」はその持ち主である彼によって組まれるもの、つまり「腕」と「組む」には受身の意味関係が成立している。したがって答えはfolded。

fold O(手・腕等):「Oを組む」

【訳】 「彼は腕を君で立っていた」

レクチャー3

感情・被害を表す動詞の分詞形に注意。

感情・被害を表す動詞は、そのほとんどが「～させる」と訳します（「～する」と訳してはいけません）。具体例を見ていきましょう。

(1)感情を表す動詞とその分詞形。

- ・surprise A(人等) 「Aを驚かす」 ☞ [現在分詞] surprising「驚かすような」
[過去分詞] surprised 「驚いた」
- ・disappoint A(人等) 「Aを失望させる」 ☞ [現在分詞] disappointing「失望させるような」
[過去分詞] disappointed 「失望した、がっかりした」
- ・satisfy A(人等) 「Aを満足させる」 ☞ [現在分詞] satisfying「満足させるような」
[過去分詞] satisfied 「満足した」
- ・interest A(人等) 「Aに興味を抱かせる」 ☞ [現在分詞] interesting「興味を抱かせるような」
[過去分詞] interested 「興味がある」

[例外](Vi)marvel「驚く」 (Vt)regret「後悔する」 (Vt)resent「憤る」 (Vt)fear「恐れる」

(2)被害を表す動詞とその分詞形。

- ・hurt A(人等) 「Aを傷つける(事故などで)」 ☞ [現在分詞] hurting[injuring]「(人)を傷つけるような」
=injure [過去分詞] hurt[injured]「傷ついた」
- ・wound A(人等) 「Aを傷つける(戦いなどで)」 ☞ [現在分詞] wounding「(人)を傷つけるような」

【過去分詞】 wounded「傷ついた」

・damage A(物等)「Aを傷つける、損害を与える」 ⇨ 【現在分詞】 damaging「(物を)傷つけるような」

【過去分詞】 damaged「傷ついた」

このような感情・被害動詞の分詞形に関する問題の見極め方法は以下の通りです。

①感情・被害動詞の分詞形が、「名詞」を修飾している場合。

その場合には、修飾している「名詞」が

1. 「物(無生物)」ならば現在分詞形を入れる
2. 「人(又は「表情」など)」ならば過去分詞形を入れる

と判断すると良いでしょう。具体例をあげてみましょう。

(ex) an exciting game おもしろい試合

【物】

an excited man 興奮した人

【人】

a boring lecture 退屈な講義

【物】

a bored look 退屈した表情

【表情】

a surprising news 驚くべき知らせ

【物】

a surprised man びっくりした男性

【人】

☞もちろん「人(表情など)」がその感情・被害を引き起こす原因となっている場合、感情を表す動詞の現在分詞形が「人」を修飾することもある。

したがって正確に言えば、その「名詞」が「その感情・被害を引き起こす原因」である場合、その「名詞」を修飾する感情・被害を表す動詞は現在分詞形をとると考えるとよい。

(ex) an exciting girl

☞「女の子」が「ワクワクする」という感情を引き起こす原因。

ワクワクするような女の子

②感情・被害動詞の分詞形が、SVCの「C」になる場合。

その場合には、S(主語)が「人(又は表情)」なのか「物(無生物)」なのかで判断します。つまりそのS(主語)が

1. 「物(無生物)」ならば現在分詞形を入れる
2. 「人(又は「表情」など)」ならば過去分詞形を入れる

と判断すると良いでしょう。具体例をあげてみましょう。

(ex) I am interested in music. ボクは音楽に興味がある
[人]

Ben was very surprised at the news. ベンはその知らせに驚いた
[人]

The movie I saw last Monday was very interesting.
[物]

ボクが昨日みたその映画はとても面白かった

The news was very surprising.
[物]

その知らせは大変驚くべきものだった

☞もちろん「人(表情など)」がその感情・被害を引き起こす原因となっている場合、現在分詞形を後ろにとることもある。したがって正確に言えば、「その感情・被害を引き起こす原因」となるものが文の主語になっている場合、後に続く感情・被害を表す動詞は現在分詞形をとると考えるとよい。

(ex) He is interesting[pleasing]. ☞「彼」が「興味深い[楽しい]」という感情を引き起こす原因。
彼は面白い[楽しい]

③感情・被害動詞の分詞形が、SVOCの「C」になる場合。

その場合には、O(目的語)が「人(又は表情)」なのか「物(無生物)」なのかで判断します。つまりそのO(目的語)が

1. 「物(無生物)」ならば現在分詞形を入れる
2. 「人(又は「表情」など)」ならば過去分詞形を入れる

と判断すると良いでしょう。具体例をあげてみましょう。

(ex) The students thought Mr. Tanaka's lecture boring.
O[物] C

生徒たちは田中先生の講義は退屈だと思った

Mr. Tanaka's lecture made the students bored.

O[人] C

田中先生の講義は、生徒たちを退屈にさせた

では、以下の問題で練習してみましょう。

1. That was a (surprise) discovery.

[解説] 修飾される名詞が「発見」。つまり「物」をあらわす名詞。

したがって surprising が正解。

[訳] 「それは驚くべき発見だった」

2. It is (disappoint) that he failed in the exam.

[解説] 「彼が試験に落ちたこと」が主語。そしてこれが「がっかり (disappoint)」の原因。したがって disappointing が正解。

[訳] 「彼が試験に落ちたのがっかりだった」

3. I was (disappoint) at the result.

[解説] 「私」つまり「人」が主語。。したがって disappointed が正解。

[訳] 「僕はその結果にがっかりした」

4. The TV program was so (bore) that I felt sleepy.

[解説] 「テレビ番組」が主語。したがって boring が正解。

[訳] 「そのテレビ番組はとても退屈だったので僕は眠くなってしまった」

5. The game was so (excite) that I also was (excite).

[解説] 前半の主語は「その試合」。後半の主語は「私」。したがって前半は exciting、後半は excited が正解。

[訳] 「その試合はとてもワクワクする内容だったので僕も興奮してしまった」

6.The news was (surprise) to me.

[解説]「その知らせ」が主語。したがって surprising が正解。

[訳]「その知らせは僕にとって驚きだった」

7.I found the wrestling match really (excite).

[解説]「find O C」の「O」に the wrestling match という「物事」を表す名詞が入っている点がポイント。exciting が正解になる。

[訳]「僕はそのレスリングの試合は本当におもしろいと思った」

8.I met with an accident and was (injure).

[解説]省略されているが主語は「私」。したがって injured が正解。

[訳]「僕は事故にあつて怪我をした」

レクチャー4

分詞構文(分詞の副詞的用法)。

(1)分詞構文とは。

分詞構文とは、分詞一語が、接続詞と動詞の2つの役割を兼ねて、主節(あるいは動詞)を修飾するという用法です。「S+V」や動詞を修飾するのですから、これは(分詞の)副詞的な用法(働き)だということになります。

分詞(～ing)=(接)+(動)

主 節

⊕主節とは、(従位)接続詞・関係詞・疑問詞等のついていない(裸の)S+Vのこと。

(1) 分詞が「接続詞」と「動詞」の役割を兼ねる

(2) 副詞的に主節(述語動詞)を修飾。具体的には以下のような意味で修飾する

①時「～の時」

③条件「もし～なら」

⑤同時状況「～しながら」

②理由「～なので」

④譲歩「～だけれど」「～だとしても」

⑥動作の連続「～してそして…」

(2)基本的な分詞構文の作り方。

基本的な分詞構文の作り方の手順は以下の通りです。分詞一語が「接続詞」と「動詞」の(2つの)役割を兼ねるわけですから、

- ①(元の英文の)接続詞はいらなくなるのでこれを消す
- ②(元の英文の)動詞もいなくなる。動詞は現在分詞形に変える
- ③(元の英文の)主語も、(それが主節の主語と同一なら)いなくなるのでこれを消す

という手順で分詞構文が出来上がります。例を挙げてみましょう。

(ex) When she saw me, she ran away. 彼女は私を見ると逃げた

- ①まず接続詞(When)を消します。

~~When~~ she saw me,

- ②次に(主節の主語と同じなので)主語(she)も消します。

~~she~~ saw me,

- ③更に動詞(saw)を現在分詞形に変えます。

saw → seeing

- ④これで分詞構文の出来上がりです。

Seeing me, she ran away.

ただし「接続詞」を省略することによる意味のあいまいさを嫌って、本来なら省略すべき接続詞をつけたままにしたような英文もときどき見受けられます。

特に接続詞が「when(の時)」「while(の間)」「if(もし)」「though(～けれど)」「unless(～しない限り)」の場合に起こりやすいですね。

(ex) while staying in London, I met an old friend of mine.

[接]

上の英文では、あえて接続詞の while が消されずに残った形になっています(元々あった I was は消されてしまっています)。

(3)分詞構文における注意事項。

基本的な分詞構文の作り方は、今も説明したようにとてもカンタンなのですが、それだけなら分詞構文がこうまで受験生を苦しめるはずはありません。これから説明する分詞構文における注意事項が頭の中に整理できれば、分詞構文はもう完璧です。

①否定文を分詞構文にするには。

以下のような、副詞節(接続詞のついている方の節)が否定文であるような英文を分詞構文にせよと言われたらどうしたらいいでしょう。

(ex) Since I didn't know what to say, I kept silent.

接続詞の Since, 主語の I を消すのはいいとして、動詞の didn't know をどうするか…。

否定文を分詞構文にするには、分詞の前に **not** をつけばいいのです。

したがって上記の英文は以下のような分詞構文になるわけです。

☞ Not knowing what to say, I kept silent.

何を言っているのかわからなかったの、私は黙ったままでいた

しかしこれは、なにも分詞だけのルールではありませんでした。準動詞(不定詞・分詞・動名詞)はすべて、否定する場合にはその直前に否定語(not, neverなど)を置くのでしたね。

(ex) She pretended **not to be** listening to me. ☞不定詞の直前にnotが置かれている。

彼女は私の話を聞いていないふりをした

You should be ashamed of **not knowing** the answer. ☞動名詞の直前にnotが置

君はその答えがわからないのを恥ずかしいと思うべきだ かれている。

②前半と後半の節の動詞の時制が異なっている文を分詞構文にするには。

以下のように、副詞節と主節で動詞の時制が異なる英文を分詞構文にせよと言われたらどうしたらいいでしょう。

(ex) As he caught cold, he is absent from school today.

接続詞の As, 主語の he を消すのはいいとして、動詞の caught の部分をどうす

るか…。単なる Catching では主節との時制のズレが表せません。

前半と後半(つまり副詞節と主節)で動詞の時制が異なっている(副詞節の方が、主節よりも時制が古い)場合、動詞を～ing形にするだけではダメ。完了形の分詞、つまり「having+p.p.～」にしないではいけません。

したがって上記の英文は以下のような分詞構文になるわけです。

☞ Having caught cold, he is absent from school today.

風邪をひいたので、彼は今日学校を休んでいる

「having+p.p.～」は、主節の動詞より時制が1つ古い(昔である)ことを表します。でもこれも、分詞だけでなく不定詞、動名詞すべて同じでしたね。つまり完了形の準動詞(to have+p.p.~/having+p.p.～)は全て主節より時制が1つ古いことを表すのです。

③前半と後半で主語が異なっている英文を分詞構文にするには。

以下のような、副詞節の主語と主節の主語が異なるような英文を分詞構文にせよと言われたらどうしたらいいでしょう。

(ex) Because it rained, we put off [延期する] going on a picnic.

接続詞の Because を消す、動詞の rained を raining にするのはいいとして、it をどうするか。これまでは前後半共に主語が同一だったので消してきましたが…。

前半と後半(つまり副詞節と主節)の主語が異なっている英文を分詞構文にする場合、これまでとは違い、副詞節の主語は消さずにそのまま残しておくてはいけません。

したがって上記の英文は(it は消さずに残して)、以下のような分詞構文になるわけです。

☞ It raining, we put off going on a picnic.

雨が降ったので私達はピクニックを延期した

もう一例見てみましょう

(ex) As Jchn returned safe, everybody was relieved.

☞ **John returning safe, everybody was relieved.**

ジョンが無事戻ったので、みんなはほっとした

このような、分詞の前についた名詞というのは、元々の英文の主語なわけで、後の分詞とは「主語と述語の関係」になります。そしてこの分詞の前についた名詞のことを、分詞の「意味上の主語」と言います。

名詞 (主格) + 分詞 (doing)
主語 述語

結局、主節の主語と意味上の主語との関係は以下のようにになります。

- ①「主節の主語 = 意味上の主語」 → 意味上の主語は明示しなくていい
- ②「主節の主語 ≠ 意味上の主語」 → 意味上の主語は明示しなくてはいけない

そしてこのルールにしても、準動詞(不定詞・分詞・動名詞)全てに当てはまるものです。本当に準動詞というのは、それに関するルールはひとつ(同じ)なのです。

④「There is[are] 構文」を分詞構文にするには。

以下のような、副詞節が there is[are]構文であるような英文を分詞構文にせよと言われたらどうしたらいいでしょう。

(ex) Since there were no seats on the train, we stood all the way.

接続詞の Since を消すのはいいとして、主語は…。

there is[are]構文を分詞構文にする場合、there を主語に見立てるのです。したがって前半と後半の主語が異なっているということになり、there は消さずに残します。とすると上記の英文は、以下のような分詞構文になるわけです。

☞ **There being no seats on the train, we stood all the way.**

列車には席がなかったので、私達はずっと立っていた

there が意味上の主語の位置に置かれるというのは、何も分詞構文だけのことでありません。これも準動詞全てにあてはまるルールなのです。

つまり、

There is[are] ㊟(名)～ :Sがいる(ある)

という構文の is[are]が準動詞になる場合、全て **there** は、その意味上の主語の位置に置かれるのです。

There is[are] ㊟(名)～ → 1.for **there** to be (名)～
[不定詞化] 2.S+V there to be (名)～
 O C
 ㊟Vはexpect, want, would like等、特定の動詞。
→ **there being** (名)～
[動名詞化]
→ **there being** (名)～
[分詞化]

(ex) It is natural for **there to be** some problem about it.

それについて何らかの問題点があるのは当然だ

I didn't say anything about it because of **there being** his wife.

彼の奥さんがいたので私はそのことについては何も言わなかった

There being no bus service, I had to take a taxi.

バスがなかったので私達はタクシーに乗らなければならなかった

こうして見てみると、準動詞は本当にそのルールがそっくりなのがわかります。不定詞・分詞・動名詞については、バラバラに覚えるのではなく、3つきちんとまとめて、整理していっしょに覚えるのが効率的だということがあらためて実感できますね。

㊟動詞がbe動詞であるような英文を分詞構文にするには。

以下のように、(副詞節の)動詞が be動詞であるような英文を分詞構文にせよと言われたらどうしたらいいでしょう。

(ex) As she was left alone, she began to weep.

接続詞の As, 主語の she を消すのはいいとして、動詞の was をどうするか…。

動詞が be 動詞の場合、分詞構文にすれば being(主節と時制のズレがあればhaving been)になるのですが、この **being(having been)** は普通省略することが多いのです。したがって上記の英文は、以下のような分詞構文になります。

☞ **[Being] Left alone**, she began to weep.
一人にされたので、彼女は泣き出した

もう一例見てみましょう。

(ex) As I was persuaded by my friends, I gave up killing myself.

☞ **[Being] Persuaded by my friends**, I gave up killing myself.
友人に説得されたので、私は自殺するのをあきらめた

このように過去分詞で始まる分詞構文は、すべて元々受動態だったと考えていいでしょう。

ではもう1つ、この英文を同じように分詞構文にするとしたらどうなるでしょう。

(ex) If you are able to operate a computer, you will be hired.

この英文を分詞構文にした場合、以下のような英文になりますね。

☞ **[Being] Able** to operate a computer, you will be hired.
[形容詞]
コンピューターを操作することができれば、君は雇ってもらえるだろう

この英文のように **Being** が省略された結果として、形容詞で始まる分詞構文もあり得るということを覚えておいてください。

それから being に関してあと1つだけ補足しておきます。

there is 構文を分詞構文にする場合、There being~ という形になるといいましたが、この場合の being は省略しません。なぜかという、先程の英文を例にあげれば、being を省略して、

There no seats on the train, we stood all the way.

などとしてしまうと、読者が文頭の There を、「そこに」という there と混同してしまうことになりかねないからです。

⑥分詞構文の分詞句は後に置かれることもある。

分詞構文を作る分詞句は、必ずしも文頭に置かれるとは限りません。文中盤や、後半に置かれることもあります。以下に例を挙げてみましょう。

(ex) An old man came up to me, asking me to dance with him.
=and he asked me to dance with him

The birds, (being) alarmed by the shot, flew away.
=because they were alarmed by the shot

(4) 「with O C」構文。「OがCの状態」。

これも分詞構文の一種(独立分詞構文と呼ばれる)なのですが、「with O C」構文として覚えてしまった方がカンタンです。「OがCの状態」が訳し方の基本です。この「with O C」構文の特徴を以下にまとめてみましょう。

- ①Oには名詞(代名詞なら目的格)が入る。
- ②Cには「形容詞」「分詞」「前置詞+名詞」「副詞」等が入る。
- ③OとCには、意味上「(OはCする(になる/である))という主語と述語の関係」が成立している。だから英文中で「with+名詞」の直後に「形容詞」「分詞」「前置詞+名詞」「副詞」があり、かつそれらと直前の「名詞」との間に「主語と述語の関係」を読み取ることができたらこの with O C構文なのではないか、と頭を働かせること。

with + 名詞 +	{	「形容詞」「分詞」 「前置詞+名詞」 「副詞」	:	「OがCの状態」
_____		[主語]		[述語]

実際の例文で今度は見てみましょう。特にCのバリエーションに注目して下さい。

(ex) with the ribbon flying in the wind 風にリボンをなびかせながら
[現在分詞]

with one's mouth full 口に食物を頬張った状態で
[形容詞]

with one's hands in one's pockets 手をポケットに入れた状態で

【前置詞+名詞】

with the tape recorder on テープレコーダーがオンになっている状態で

【副詞】

⇨ テープレコーダーで録音しながら

レクチャー5

間違えやすい分詞構文（特に過去分詞で始まる分詞構文等）。

以下の空欄中の see を seeing、seen いずれかに変えよと言われたら、さてどちらが正解になるのでしょうか。

(See) from a distance, it looks like a human face.

遠くから見ると、それは人間の顔のように見える

この手の問題の見極めのポイントは、**主節の主語との意味関係**（「能動」か「受身」か?）について考えてみることです。

つまり上記の問題、主節の主語の「it(それ)」と「see(見る)」との意味関係は明らかに「受身」（「物」である「it(それ)」は、「人」によって見られる側）です。したがって正解は過去分詞の Seen。

なお繰り返しになりますが、意味関係を考える際「**英語は常に人間中心に(その意味関係を)考える**」という点を忘れないでください。

では、以下の問題で練習してみましょう。

1.(See) it from a distance, you may take it for a human.

[解説]後半の主節の主語の「you(あなた)」と「see(見る)」の関係に着目する。

人間である「あなた」が「見る」わけで、その意味関係は「能動」。したがって正解は現在分詞の Seeing。

[訳]「遠くから見ると、君はそれを人間と間違えるかも知れない」

2.(Use) economically, this will last for a year.

[解説]後半の主節の主語の「this(これ)」と「use(使う)」の意味関係は「受身」(「物」である「これ」は「人」によって使われる側)。したがって正解は過去分詞の Used。

[訳]「経済的に使えば、これは1年は持つだろう」

3.(Compare) with the old one, this machine is so inexpensive.

[解説]後半の主節の主語の「this machine(この機械)」と「compare(比較する)」の意味関係は「受身」。したがって正解は過去分詞の Compared。

[訳]「古いのと比べると、この機械はとても安価だ」

4.All things (ocnsider), we were very lucky.

[解説]このように空欄の前に名詞がある場合には、その名詞との関係について考えて見る。つまり「all things(全てのこと)」と「ocnsider(考慮に入れる)」の意味関係。これは受身(「物事」は「人」によって考慮される側)。したがって正解は過去分詞の ocnsidered。

[訳]「全てを考慮に入れば、我々は幸運だった」

レクチャー6

分詞構文の訳し方。

分詞構文のうまい和訳の作り方のルールは以下の通りです。

- ①分詞句が文頭、文中盤にある場合には「時」「理由」「条件」「譲歩」のどれかで訳す。
- ②分詞句が文章後半にあった場合には「そして～(する)」「～しながら」のどちらかで訳す。
もちろん文章後半でも「時」「理由」「条件」「譲歩」のいずれかで訳した方がいい分詞句もある。また文章前半や中盤の分詞句を「そして～」「～しながら」と訳した方がいいこともあるので文脈によって臨機応変な対応は必要。
- ③過去分詞や形容詞で始まるような分詞構文には注意せよ。訳し方のルールは普

通の分詞構文と同じ。

- ④ 「with O C」構文かどうかの見極めは、with の直後の語句に「主語と述語の関係」が成立しているかどうか。成立していれば with O C構文。そのうまい和訳の仕方は、「時」「理由」「条件」「譲歩」「そして～(する)」「～しながら」の6種類のうちから文脈に則して適当なものを選ぶ。

レクチャー7

慣用的な分詞構文。

以下のものは、一種の決まり文句として覚えてしまいましょう。

(1) Strictly [Generally / Frankly / Roughly / historically] speaking,

「厳密に [一般的に / 率直に / 大雑把に / 歴史的に] 言って」

(ex) Frankly speaking, it is difficult to deny the fact.

率直に言って、その事実は否定しがたい

(2) Judging from A,

「Aから判断すると」

(ex) Judging from the look of the sky, we'll have a shower this evening.

空模様から判断すると、夕立が降りそうだ

(3) Granting [Granted / Admitting] (that) S+V~, 「～だとしても」 [譲歩]

(ex) Granting (that) she is not a bad person, I can't trust her.

彼女が悪い人間でないとしても、私は彼女を信用できない

(4) Assuming (that) S+V~,

「仮に～ならば」

(ex) Assuming it rains tomorrow, what will we do?

明日雨が降るとしたら、どうしましょう

(5) Considering (that) S+V~,

「～を考慮に入れると」

(ex) Considering (that) he has experience, I think he could win the race.

彼の経験を考慮すると、彼はその試合に勝てるだろうと思います

(6) Talking [Speaking] of A, 「Aといえば」

(ex) Talking of paintings, which painter do you like best?
絵画といえば、どの画家が一番好きですか

(7) Taking A into consideration, 「Aを考慮に入れると」

=Considering A

=A considered

(ex) Taking her age into consideration, she did it quite well.
=Considering her age,
=Her age considered,
彼女の年齢を考えれば、彼女はとてもうまくやった

(8) Weather permitting, 「天気が許せば」

(ex) Weather permitting, we'll start tomorrow afternoon.
天気が許せば、我々は明日の午後出発する

(9) Provided [Providing] (that) S+V~ 「もし~ならば」 ☞ifと同じ意味だが、仮定法には用いない。

(ex) Provided (that) the weather is clear, we'll go there.
天気さえよければ、そこに行きます

(10) Supposing (that) S+V~ ☞ifと同じ意味で、仮定法でも用いる。

(ex) Supposing (that) he were here, what would you say?
もし彼がここにいたら、君は何と言いますか

(11) Seeing (that) S+V~ 「~という事実から見ると」「~なので」

(ex) Seeing (that) you've come, we'll settle it now.
君が来たのだから、今決めてしまおう

(12) Such being the case, 「こういう事情なので」

(ex) Such being the case, I can't go there with you.

こういう事情なのであなたと一緒にそこには行けません

(13) Night coming on,

「夜がやってきたので」

(ex) Night coming on, we went back home.

夜がやってきたので、私たちは家に帰った

(14) Given (that) S+V~

「~だと仮定すると」「~を考慮すれば」

(ex) Given that he is still young, he did well.

彼がまだ若いという点を考慮に入れれば、彼はよくやった

レクチャー8

分詞形容詞について。

レクチャー1で、分詞とは『「動詞」と「形容詞」の性質を"分かち"持つ"詞(ことば)"』という意味だと言いましたが、分詞の中には、動詞的性格を失い100%形容詞として働くようになったものもあります(辞書にも形容詞として紹介されている)。簡単な例を挙げると tired(疲れた)や、charming(魅力的な)、thrilling(スリルに飛んだ)、handmade(手作りの)、heartwarming(心温まる)などがそうです。

愈「レクチャー3」で紹介した「感情・被害を表す動詞の分詞形」も実はこの分詞形容詞の仲間。

この分詞形容詞の中には、日本人には意外に思える意味になるものもあります。頻出の語を挙げてみましょう。

(1) —ed型。

accustomed

①いつもの、例の

(ex) her accustomed seat 彼女のいつもの席

②[be accustomed to A/doing~] A/~することに慣れている

(ex) Bob is accustomed to hard work.

ボブはつらい仕事に慣れている

accomplished

①熟達した

(ex) an accomplished musician 音楽の大家

②教養のある, 才芸のある

(ex) an accomplished young lady 教養を身に付けた若い女性

acquired

(個人的努力によって)習得した

(遺伝的に対して)後天的に得た ⇔ inborn, innate:生まれつきの

(ex) an acquired trait 習性

an acquired immune deficiency syndrome 後天性免疫不全症候群、エイズ

affected

きどった、わざとらしい、不自然な

(ex) with affected manners 気取った態度で

aged

年老いた

(ex) an aged man 老人

agonized

苦痛に満ちた、懸命な

(ex) an agonized effort 死に物狂いの努力

air-conditioned

空調の聞いた、エアコンの付いた

appointed

指定された、約束した

(ex) at the appointed time 約束の時間に

armed

武装した、武器使用の ⇔ unarmed:非武装の

(ex) an armed robber 武器を持った強盗

an armed conflict 武力衝突

ashamed

恥ずかしい

- (ex) I was ashamed of my ignorance. 私は自分の無知が恥ずかしかった
I am ashamed to say I failed. お恥ずかしいことですが不合格でした

assured

①保証された、確実な

- (ex) an assured income 確実な収入

②自身のある、自信満々の

- (ex) He looks very assured. 彼は自信たっぷりの様子だ

attached

①(～に)愛着のある、慕っている

- (ex) The girl is deeply attached to her aunt.
少女は叔母をととても慕っている

②(～に)くっついた、付属の

- (ex) an attached school 付属学校

beloved

①最愛の、かわいい

- (ex) his beloved daughter 彼の愛娘(まなむすめ)

②(～に)愛されて

- (ex) a boy greatly beloved by[of] all みんなにとっても愛されている少年

chilled

冷えた、冷蔵した

- (ex) chilled beef 冷蔵牛肉、チルドビーフ

civilized

文明化した、教化された、文明人の ⇔ barbarous

- (ex) a civilized life 文化的な生活

decayed

腐った 衰退した

- (ex) a decayed tooth 虫歯

deceased

(最近)死んだ =dead, departed

故…

(ex) my deceased father 私の亡父

departed

①過ぎ去った

(ex) glories 過去の栄光

②亡くなった、他界した

deprived

〈人・境遇などが〉貧しい、〈住宅・施設・職業などに〉恵まれない、
困窮している

(ex) a deprived childhood 恵まれない子供時代

a deprived area 貧困地域

deserted

①見捨てられた

(ex) a deserted child 捨て子

②人の住まない、人通りの絶えた

(ex) a deserted village さびれ果てた村

a deserted street 人通りの絶えた通り

detailed

詳細な

(ex) make a detailed explanation 詳しく説明する

He gave us a detailed account of the accident.

彼はその事故を詳細に説明してくれた

determined

決然とした、断固たる =resolved

(ex) a determined look 決然たる表情

devoted

=dedicated

①熱愛している

(ex) a devoted husband 愛情の深い夫

②献身的な、忠実な

(ex) a devoted friend 忠実な友人

③[be devoted to A(物・事)]Aに専心(没頭)している

(ex) Bob is devoted to reading novels.

ボブは小説を読むのにふけている

people dedicated to political change

政治の改革に専念している人々

endangered

絶滅にひんしている

危うくなった

(ex) an endangered species 絶滅の危機にひんしている動[植]物

fixed

①固定した、動かない、据え付けられた

(ex) fixed seats 据え付きの座席

②[考え・意見などが] 変わらない、確固とした

(ex) a fixed idea 固定観念

③[表情が] 変わらない

(ex) a fixed stare 凝視

④変わらない、決まっている

(ex) fixed assets 固定資産

a fixed deposit 定期預金

a fixed income 固定収入

fixed expression 決まり文句

gifted

=talented

生まれつき才能のある、天分のある

(ex) a gifted guitarist 天分のあるギタリスト

He is talented at learning languages. 彼は語学習得に才能がある

hurried

大急ぎの、あわてた

あわただしい

(ex) a hurried reply 大急ぎで書いた返事

a hurried trip あわただしい旅行

ill-mannered

行儀の悪い、無作法な

(ex) an ill-mannered child 行儀の悪い子供

informed

①知識[学識]のある、見聞の広い、消息通の

(ex) a well-informed person もの知り(教養ある人)、消息通
informed sources 消息筋事情通

②知識のいる[を用いた]

(ex) an informed guess 詳しい情報に基づく推測

inclined

①～したいと思う(気がする) =feel like doing~

(ex) I'm not inclined for[to do, toward doing] anything today.

今日は何にもする気にならない

Didn't you ever feel inclined to get away from it all?

何もかも捨てて逃げ出したいと思ったことはありませんか

②(性格・体質的に)傾向がある =tend to do[願]~

(ex) Some people are inclined to put on weight in winter.

冬に体重が増える傾向の人もある

inspired

①靈感を受けた

(ex) an inspired poem 靈感を受けて書いた詩

②すばらしい、見事な

(ex) an inspired performance 見事な演技

intended

①意図された、故意の

(ex) The measures failed to produce the intended effect.

その措置は所期の効果を挙げられなかった

②予定された、将来の

(ex) the minister's intended visit to Britain

大臣の予定されている英国訪問

involved

① 込み入った、複雑な

(ex) an involved problem 複雑な問題

② [名詞+involved] (事件などに)関係のある

(主義・運動に)打ち込んだ、参加した

(ex) the people involved 関係者たち

③ [be/get] involved]

[…に] 巻き込まれて、首を突っこんで [in]

(ex) He's involved in debt [in a conspiracy].

彼は借金で首が回らない[陰謀に巻き込まれている].

[…と] 掛かり合いがあって、関係して [with]

(ex) He got involved with a motorcycle gang.

彼は暴走族と掛かり合いをもつようになった

[…に] 熱中して、夢中になって [in, with]

(ex) He's very involved in his work.

彼はすっかり仕事に熱中している

He's involved with his girlfriend.

彼はガールフレンドといい仲になっている

isolated

① 孤立した、隔離された =alone, solitary

(ex) an isolated house(他の家々から遠く離れた)1軒家

an isolated island 孤島

② 例外的な

(ex) an isolated example 例外的なケース

learned

☞発音注意。[lə:rnɪd]

① 学識のある

(…に)通じている ⇔ ignorant

(ex) a learned man 学者

He is learned in the law. 彼は法律に明るい

② 学問的な、学術的な

(ex) a learned book 学術書

a learned society 学会

manned

[宇宙船が] 乗組員のいる、有人の
(ex) a manned spaceship 有人宇宙船

marked

- ①著しい、目立つ
(ex) a marked difference 著しい差異
show a marked increase 著しく増加する
- ②注意されている
(ex) a marked man 注意人物

〇〇-minded

〇〇の気質の(な考え方をする)
〇〇に関心のある
(ex) high-minded (心の) 高潔な
evil-minded 邪悪な心の
a traditionally minded Japanese 伝統的な考え方をする日本人
an open-minded attitude あけっぴろげな態度
mechanically-minded 機械いじりの好きな
politically minded 政治志向の
a car-minded man 車に夢中の人

mixed

- ①混じり合った、混成の、雑多の、五分五分の、功罪相半ばする
(ex) mixed fruits 果物の詰め合せ
mixed emotions 複雑な感情
- ②男女混合の、共学の
(ex) a mixed school 男女共学の学校

moon-faced

丸顔の

organized

組織化された、計画された
準備の整った
(ex) well-organized party よく準備されたパーティー
organized crime 組織的犯罪

Their office is well organized.

彼らの会社は能率的に組織化されている

a highly organized person 仕事を非常にてきぱきとやる人

Two weeks after moving in I am at last getting organized.

引っ越して来てから2週間経って、やっと生活が軌道に乗ってきた

over-populated

人口過剰の、過密な

prejudiced

偏見のある、先入観を持った

(ex) a prejudiced opinion 偏見

prolonged

長引いた、長期の =long

(ex) a prolonged illness 長わづらい

Don't take this medicine over a prolonged period without professional guidance.

専門家の指導なしにこの薬を長い期間摂取しないようにしなさい

removed

(〜から)かけ離れた、隔たった

(ex) a town removed from the capital 首都から離れた町

His action is little removed from madness. 彼の行動は狂気に近い

renowned

(…として)有名な

(ex) He is renowned as a guitarist. 彼はギタリストとして有名である

scattered

①ばらばらの、散在した

(ex) a scattered family 離散した一家

a scattered village 人家まばらな村

scattered houses 点在する家

②時折りの、散発的な

(ex) scattered showers 散発的な夕立

short-sighted

- ①近眼の =near-sighted
⇔longsighted
- ②近視眼的な、先見の明がない ⇔farsighted

stated

- ①定まった、規定の
定期の
(ex) at a stated time 所定の時間に、定刻に
at a stated price 定価で
- ②公表 [明言] された

suntanned

(健康的に)日焼けした

varied

- ①さまざまの(な)、種々の =various
(ex) varied collection of stamps さまざまな切手のコレクション
- ②変化に富んだ
(ex) live[lead] a varied life 変化に富んだ生活をする

(2) -ing型。

abiding

終わることのない、永続的な、不変の =lasting
(ex) an abiding friendship 永久に変わらない友情

absorbing

夢中にさせる(ような)、非常に面白い =very interesting
(ex) an absorbing story 我を忘れるほど面白い物語
會be absorbed in A で「Aに夢中になっている」も頻出。
(ex) He was absorbed in the book. 彼はその本に夢中だった

admiring

賞賛[感嘆・敬服]する
(ex) admiring glances 感嘆のまなざし

an admiring crowd 感心して見とれる群衆

amazing

びっくりするような、驚くほどの =surprising, startling, astonishing

(ex) The car went at an amazing speed.

その車はびっくりするようなスピードで走った

annoying

いらいらさせる、腹立たしい、迷惑な

うるさい、わずらわしい

(ex) annoying delays はた迷惑な遅れ

an annoying little boy うるさい男の子

appealing

①哀願的な、人の胸に訴える

(ex) an appealing look[tcne] 訴えるような目つき[口調]

②人(の心)を引きつけるような、魅力的な

(ex) an appealing smile 魅力的な微笑

appetizing

食欲をそそる、うまそうな

(ex) an appetizing smell うまそうなおい

calculating

①計算用の

(ex) a calculating machine 計算器 =calculator

②抜け目のない、打算的な =scheming

(ex) He is a cold, calculating man. 彼は冷たい計算ずくの男だ

caring

①世話[介護]をする

(ex) the caring professions 福祉関係の職業

看護婦・社会福祉士など。

a caring community 福祉社会

②(他人に)思いやりのある、面倒見のよい =loving

(ex) a caring attitude 思いやりのある態度

a caring wife めんどくさい見のいい妻、世話(好きな)女房

catching

①うつる、伝染性の

(ex) His enthusiasm is catching. 彼の熱意は人から人へと広がっていく
a disease that is catching 伝染病

②人目を引く、魅力のある =catchy

challenging

①挑戦的な、人の能力を試す

骨の折れる、大変な、苦しい

(ex) a challenging game 挑戦試合

a challenging course 難しいコース[科目]

Water supply is one of our most challenging problems.

給水は最も厄介な問題の1つだ

②意欲をそそる、やりがいのある、興味をかき立てる、深く考えさせる

(ex) a challenging job やりがいのある仕事

a challenging suggestion 意欲をそそる提案

③挑発的な

〈個性・表情などが〉魅惑[魅力]的な

(ex) a challenging smile 誘うような微笑

a challenging attitude 挑発的な姿勢

choking

息苦しい(ほどの)

[声が] 感情で詰まった

(ex) a choking cloud of smoke 息が詰まるようなもうもうたる煙

coming

①次の、来たるべき =next

(ex) this coming Wednesday 今度の水曜日

the coming generation 次の世代

②有望な、今売り出し中の

(ex) a coming young man 売り出し中の[将来有望な]人

convincing

(話し手・議論が)説得力のある =persuasive

いかにももっともらしい

(ex) a convincing argument 人を納得させる(なるほどと思われる)議論
a convincing lie いかにももっともらしいうそ

crushing

圧倒的な, 決定的な

(ex) a crushing defeat 大敗北

cunning

①ずるい、悪賢い

(ex) a cunning trick こうかつな策略

He is as cunning as a fox. 彼はキツネのようにずるい

②〔子供・小動物などが〕かわいらしい

(ex) a cunning baby かわいらしい赤ん坊

cutting

①鋭利な

(ex) a cutting edge 鋭利な刃

②身を切るような

(ex) a cutting wind 身を切るような風

③痛烈な、辛辣な

(ex) a cutting irony 辛らつな皮肉

daring

大胆な、勇敢な

ずうずうしい

(ex) a daring enterprise 大胆な企て

demanding

〈人が〉過度に要求する、不当な要求をする

〈仕事などが〉過大の労力を要する

(ex) a demanding job きつい仕事

a demanding teacher 厳しい教師

depressing

気をめいらせる(ような)、重苦しい、陰気な

(ex) depressing news 憂うつな[暗い]知らせ

disgusting

むかつくような、胸が悪くなる

全く嫌な

(ex) What a disgusting smell! なんて嫌な臭いなんだ

dying

①死にかかっている

(ex) a dying man 瀕死の人

②死にぎわの、臨終の

(ex) his dying words[bed] 彼の遺言[臨終の床]

I'll never forget your kindness to my dying day.

あなたのご親切は死ぬまで忘れません

③暮れかかった〔日・年〕

滅びかけている

消え入りそうな

(ex) the dying year 暮れ行く年

a dying flare 消えそうな炎

enduring

長続きする、永続性のある、不朽の =(ever)lasting, eternal

(ex) enduring peace 恒久の平和

enduring fame 不朽の名声

He swore enduring love. 彼は変わらぬ愛を誓った

enlightening

啓発的な

(問題点などを)はっきりさせる

(ex) That's an enlightening remark. そう言われると良く分かる

epoch-making

画期的な

(ex) an epoch-making discovery 画期的な発見

lasting

(普通以上に)長続きする、耐久力のある =durable

永続的な、永久の

(ex) a lasting friendship 永遠の友情

a lasting peace 恒久平和

a lasting color いつまでもあせない色

exhausting

心身を疲れさせる(ような)

(ex) an exhausting sport 消耗の激しいスポーツ

eye-catching

人目を引く

fascinating

魅惑的な、うっとりさせる、非常に美しい

(ex) a fascinating girl 魅惑的な少女

good-looking

量[顔立ち]のよい =handsome

increasing

ますます増える

(ex) An increasing number of people are giving up smoking.

たばこをやめる人の数がますます増えている

increasing traffic 日に日にふえる交通量

the increasing age 寄る年波

inquiring

① {よい意味で} 好奇心の強い、知識などを求める

(ex) an inquiring mind 探究的な精神

好奇心旺盛(おうせい)な人

②不審そうな、物を知りたげな、けげんそうな

(ex) He looked at her with inquiring eyes.

彼は不審そうな目つきで彼女を見た

inspiring

鼓舞する

靈感を与える

(ex) an inspiring speech 感銘深い演説

an inspiring book 人を鼓舞する本

insulting

侮辱的な、無礼(失敬)な =offensive

(ex) The president made insulting remarks about him.

大統領は彼を侮辱する発言をした

irritating

イライラさせる、癩(かん)に触る

(ex) He has an irritating habit of giggling.

彼のくすくす笑う癖は人をいらいらさせる

killing

①殺す、致命的な、(植物を)枯らす

(ex) a killing disease 致命的な病気

②〈運動が〉ひどく疲れる

〈経験などが〉死ぬほどつらい

〈仕事などが〉骨の折れる

(ex) at a killing pace とてもついていけない歩調で

The work was killing. その仕事は死ぬほど骨が折れた

leading

①主な、主要な

第一流[位]の

(ex) They visited the leading countries of Europe.

彼らはヨーロッパの主要国を訪ねた

a leading cause of an accident 事故の主な原因

a leading newspaper 一流新聞

②主役の、主演の

(ex) a leading actor 主演男優

③導く、先導する

(ex) a leading car 先導車

a leading thought 指導的な思想

losing

勝ち目のない、負けの

損をする

(ex) a losing game 勝ち目のない勝負

loving

愛する、愛情の深い、愛情のこもった

(ex) a loving wife 夫思いの妻

Your loving daughter, Jane 愛する娘ジェーンより
手紙の文句。

loving nature 愛情深い性質

misleading

誤解させる、迷わせる、まぎらわしい

(ex) a misleading expression 誤解を招く表現

missing

①行方不明の、見つからない

(ex) a missing person 行方不明の人

②欠けている

(ex) a book with four pages missing 4ページ欠けている本

moving

①動く、動いている

動かす、原動力となる

(ex) a moving world 変動する世界

a moving force 原動力

②感動させる

(ex) moving appeal 人の心を動かす訴え

obliging

面倒見のいい、親切な、喜んで手を貸す =kind

(ex) I found him most obliging when I asked him a favor.

彼に頼み事をした時彼はとても親切な人だと分かった

observing

観察的な、観察眼の鋭い

opening

はじめの、最初の

(ex) an opening address[speech] 開会の辞

an opening ceremony 開会[院・校・通]式

his opening words 開口一番の言葉

peace-loving

平和を好む

pending

①未決定の、懸案中の

(ex) a pending question 懸案

patent pending 出願中の特許

The lawsuit is pending. その訴訟は係争中だ

②差し迫っている

piercing

①〔音が〕つんざくような

〔寒さ・風などが〕刺すような

(ex) a piercing scream 耳をつんざくような悲鳴

piercing cold 身を切るような寒さ

②洞察力のある、鋭い

(ex) piercing eyes 鋭い眼

a piercing glance 鋭い一瞥(べつ)

pressing

①急を要する、差し迫った =urgent

(ex) a pressing necessity 差し迫った必要

②熱心な、しつこい

(ex) a pressing demand たつての要求

prevailing

①広く行われている、普及している

(ex) the prevailing opinion 一般的な意見、通説

②優勢な、有力な

(ex) the prevailing winds in this district

この地方によく吹く風(地域的・季節的に最も優勢な風)

promising

有望な、頼もしい =hopeful

(ex) promising student 有望な学生

The harvest looks promising. 豊作になりそうだ

puzzling

(人を)まごつかせる、当惑させる
(ex) a puzzling question 難問

questioning

不審そうな、いぶかしげな
(ex) a questioning tone いぶかしげな声の調子

raging

激怒した
荒れ狂う、猛烈な =violent
(ex) a raging storm 激しいあらし
a raging battle 激しい戦闘

record-breaking

(通例スポーツで)記録破りの、空前の

relaxing

①くつろがせる、ほっとする
(ex) a relaxing place くつろげる場所
②〔気候・天候が〕体をだるくさせるような、けだるい
(ex) a relaxing climate 体のだらけるような気候

rewarding

①〈経験・行為が〉報い〔やりがい〕のある、満足感を味わえる
(ex) a rewarding experience 貴重な経験
a rewarding book 読んでためになる本
Teaching is a rewarding profession. 教職はやりがいのある職業だ
②(金銭上・物質上の)もうけ〔利益〕になる =profitable

rising

①上昇する、上がる、登る
〈太陽・月・星が〉出る、昇る
(ex) rising smoke 立ち昇る煙
the rising sun 昇る朝日
②増大〔増加〕する、強まる

増水する

〈温度が〉高まる、上がる

騰貴する

(ex) a rising emotion 高まる感情

the rising power of the church 教会の増大する勢力

the rising stream 水かさの増している川

roaring

①ほえる

とどろく

嵐の

どんちゃん騒ぎの

(ex) a roaring night 暴風雨の夜

大騒ぎの夜

②大繁盛の

元気いっぱいの

(ex) He does a roaring trade. 彼の商売は大繁盛だ

a roaring success 大成功

ruling

①〔人・党派が〕統治する、支配する

(ex) the ruling classes 支配階級

both the ruling and opposition parties 与党も野党も

②優勢な、有力な、支配的な

主な

(ex) a ruling idea 有力な考え

the ruling factor in recovery from an illness

病気の回復の主な要因

seeming

うわべの、外見上の

見せかけの、もっともらしい

(ex) seeming friendliness うわべだけの親しさ

會副詞形の seemingly は「うわべは、外観上は」「見たところでは」。

(ex) a seemingly happy family うわべは幸せそうな家族

She was seemingly unaware of it.

見たところ彼女はそれに気付いていないようだった
=It seems that she was unaware of it.

soaking

ずぶ濡れになるほどの

(ex) a soaking downpour ずぶぬれになるほどの大雨

sparkling

①きらきらと輝く、きらめく

②活気のある、生き生きとした

ひらめく

③発泡性の

speaking

①話をする(程度の)、口をきく(ような)

(ex) a speaking acquaintance 会えば言葉を交わすぐらいの間柄 [知人]

have a speaking knowledge of French

話ができる程度のフランス語の知識がある

a speaking voice 話し声

②物を言いそうな

生き生きとした =vivid

(ex) a speaking portrait 生き写しの肖像画

a speaking proof このとおりと言わんばかりの証拠

a speaking look 表情豊かな目つき

stabbing

①〔痛みなどが〕刺すような

(ex) stabbing pain 刺すような痛み、激痛

②辛辣な

(ex) a stabbing remark とげのある言葉

stirring

①感動〔興奮〕させる、感激的な、心をかき立てる

(ex) a stirring tale[speech] 感動的な話〔演説〕

②活動的な、活発な

多忙な

雑踏する、繁華な

(ex) lead a stirring life 多忙な生活を送る
live in stirring times 騒がしい時代に生きる

striking

著しい、目立つ、際立った =marked

とても魅力的な =stunning

(ex) a striking difference between a human being and a chimpanzee
人間とチンパンジーとの間の目立った違い
a woman of striking beauty きわだって美しい婦人
a striking dress 目だつ服

tearing

①猛烈な、すさまじい

(ex) in a tearing hurry[rush] ひどく急いで

②引き裂く(ような)

心をかきむしるような

(ex) a tearing headache 割れるような頭痛

telling

①効果的な、よく効く

説得力のある

(ex) a telling blow 有効な一撃

a telling argument 大そう説得力のある議論

suffer telling losses 痛い損害を被る

②(内情などをおのずから)暴露する =revealing

(ex) That is rather telling. それで内情はかなり分かった

tempting

①誘惑する、心[味覚]をそそる、魅力的な =attractive

(ex) a tempting offer 心が動く申し出

It was tempting to say so. そう言ってみたかった

②うまそうな

(ex) a tempting meal よだれが出そうな食事

tiring

疲れさせる(ような)

退屈な

(ex) a long and tiring speech 長くて退屈な講演

touching

(人を)感動させる、いじらしい、痛ましい

(ex) a touching story 心を打つ物語

unquestioning

疑わない、信頼しきった

(ex) unquestioning acceptance 黙って受け入れること

unquestioning obedience 絶対的な服従

waking

目覚めている

(ex) waking hours 目が覚めて[起きて]いる時間

a waking dream 白昼夢

wanting

(～に)欠けている

(～が)足りない

(ex) Directions for assembling this toy are wanting.

このおもちゃには組立て説明書が付いていない

She is wanting in common sense. 彼女は常識が足りない

㊦wanting は前置詞として「～がない」「～の足りない」という意味もある。

(ex) a coat wanting some buttons ボタンがいくつか取れている上着

a year wanting five days 1年に5日足りないだけの期間

㊦また wanted は「〈広告文などで〉〇〇入用、求む〇〇」、「指名手配の」

「待ちに待った、待望の ⇔ unwanted」という意味になる。

(ex) Wanted a secretary. 求む秘書

※A secretary is wanted. が倒置・省略されたもの。

Wanted: receptionist, female. 求む女性受付係

a wanted man お尋ね者、指名手配中の犯人

a much wanted baby 待ちに待った赤ん坊

warning

警告の、戒めの

(ex) a warning signal 危険信号

㊦warning には「警告」「戒め(の言葉)」という意味の名詞もある。

(ex) They attacked without warning. 彼らは警告なしで攻撃してきた
You should take warning from what happened to them.
彼らに起こったことを自分に対する戒めとしなさい

willing

① [be willing to do[願]]喜んで～する、自ら進んで～する

(ex) I'm willing to help you. 手伝ってもいいですよ
My children aren't willing to obey.

うちの子供たちはどうも言うことをきかない

He was quite willing for me to take his place.

=He was quite willing that I should take his place.

彼は私が彼の後任になることに全く異存はなかった

會反意語は be unwilling[reluctant] to do[願]～。「～したがるらない」。

(ex) She is unwilling[reluctant] to come. 彼女は来たがるらない
Mother is unwilling[reluctant] for me to join the club.

母は私がそのクラブに入るのに乗り気でない

② [人・行為などが] 自発的な

(ex) a willing worker 自分から進んで働く人

We were lucky to have a lot of willing hands.

我々は進んで手助けしてくれる人がたくさんいて幸運だった

They all gave us willing service.

彼らは皆自発的に尽くしてくれた

會反意語はやはり unwilling[reluctant]。「嫌々の」「不承不承の」。

(ex) an unwilling[reluctant] reply 不承不承の返事

a unwilling[reluctant] promise いやいやながらの約束

working

① 働く、労働に従事する

労働に用いられる、仕事(用)の

活動中の、動いている

(ex) the working population 労働人口

working hours 就業時間

working clothes 作業服

a working mother 子育てしながら働く女性

working parts of a machine (外装・容器に対しての)機械の可動部分

②実際に役立つ

十分な、実用的な

- (ex) a working majority 議案の通過に必要な過半数
a working knowledge of Spanish スペイン語の実用的知識

worrying

①〈物事が〉厄介な、面倒(めんどう)な =troublesome, awkward

- (ex) a most worrying question ひどく厄介な質問
a worrying week いろいろ問題のあった1週間

②心配な、不安な =disturbing

- (ex) It must be worrying for you not to know where she is.
彼女の居場所がわからないのは君にとってさぞかし心配なことだろう
It is extremely worrying that the government acted so slowly.
政府の対応がひどく遅れてきわめて気がもめる

會worried は「〔人が〕困った、当惑した」「〔顔などが〕心配そうな
=anxious」という意味になる。

- (ex) a worried look 心配そうな顔
I'm much[very] worried about your health.
私は君の健康がとても心配だ

《mistaken の見極め法について》

以下の2つの英文ですが、①の mistaken は、動詞の mistake の受動態としての過去分詞。②のmistaken は分詞形容詞です。

- ①He is often mistaken for his brother.
彼はよく彼のお兄さんと誤解される(間違えられる)
②You are mistaken about it.
あなたはそれについて誤解しています(間違っています)

この2つの mistaken の見極め法ですが、mistaken が「動詞の mistake の過去分詞」なのか、「分詞形容詞の mistaken」なのかは、特に上のような「be mistaken」となっている場合には、このように考えたら良いでしょう。

つまり、「動詞の mistake の過去分詞」として be mistaken となって

いるのなら、それは受動態ということなのですから、元の能動態の英文に直せるはずですよ。

①の英文の場合、確かに

He is often mistaken for his brother.

→ (we) often mistake him for his brother.

(私達は)彼をよく彼の兄と間違える

☞mistake A for B: AをBと間違える

と書き換えることができますね。

ところが

You are mistaken about it.

の場合、

(We) mistake you about it.

としても全く意味が通じません。

そこで You are mistaken about it. という英文中の mistaken は分詞形容詞で「間違った、誤解した」だと判断できます。

この分詞形容詞の mistaken の例をいくつか挙げておきましょう。

(ex) Please correct me if I am mistaken.

間違っていたら訂正してください

I was mistaken about the date. 私は日にちを間違っていた

If I'm not mistaken, his wife died recently.

確か彼の奥さんは先日なくなっている

a mistaken kindness ありがた迷惑なこと

a case of mistaken identity 人違いのケース

mistaken politeness 場違いの礼儀正しさ

a mistaken answer 誤答

Unless I'm mistaken, that's my pen you're writing with!

もしかしたら(私の間違いでなければ)君の使っているペンは私の
ではないですか

《補足：準動詞の働きのまとめ》

	名詞用法 (S・O・Cになる)	形容詞用法 (名詞を修飾する・補語になる)	副詞用法 (名詞以外を修飾)
不定詞 (to do/ do) ④do[原形]は、基本的にC(補語)になるのみ。	○ ④「すること」と訳す。	○ ④不定詞の形容詞用法は名詞を(後ろから)修飾する働きのみ。訳し方は「するための(ような)」「すべき」「という」。	○ ④「目的」「結果」「条件」「感情の原因」「判断の根拠」「形容詞の補足」など。
動名詞 (doing)	○ ④「すること」と訳す。 不定詞と違って「前置詞の目的語」にもなれる。	×	×
分詞 (doing / p.p.)	×	○ ④分詞は名詞を修飾する以外に補語にもなれる。	○ ④分詞構文がこの用法にあたる。

(注)不定詞の名詞用法と、動名詞の名詞用法の違いは、動名詞と違って、不定詞は前置詞の後ろには置けない、という点だった。

	用法	意味上の主語	否定形	受け身形	完了形
不定詞	名詞 形容詞 副詞	for A(目的格) to do (Vt) A(目的格) to do	not to do	to be+p.p. p.p.=過去分詞	to have+p.p.
動名詞	名詞	A(所有格or目的格) doing ④Aに名詞がそのまま入ることもある	not doing	being+p.p.	having+p.p.
分詞	形容詞 副詞	A(主格の名詞) doing	not doing	being+p.p.	having+p.p.

(注1)用法に関して…不定詞だけが名詞、形容詞、副詞のすべての用法がある。動名詞は名詞用法のみ。分詞の「副詞用法」とは分詞構文のこと。

(注2)意味上の主語に関して…上の表のAとそれぞれの準動詞(不定詞・動名詞・分詞)の間には、主語と述語(「Aが～する」)の関係が成立している。

④また、意味上の主語と、文の主語が同じである場合には意味上の主語は書かなくていい(省略できる)というルールも、不定詞、分詞、動名詞すべてに共通している。

(注3)否定に関して…図のように準動詞の否定は、すべて準動詞の前にnotをつける。

(注4)完了形に関して…完了形の準動詞は、述語動詞より時制が1つ昔であることを表す。ただ、希望・期待・意図を表す動詞の過去時制の後につづく完了不定詞は、その希望・期待・意図などが「実現できなかった」という意味を表す。

①She hoped to have become a nurse.

=She hoped to become a nurse but she couldn't.

②She hoped to become a nurse.

①は「彼女は看護婦になりたかった(が実際になれなかった)」という意味を持っている。

②では、彼女が本当に看護婦になったかどうかは不明。

(注5)There is[are] 構文を分詞構文にする場合、thereを(意味上の)主語に見立てて、分詞の前に置くわけだが、これも準動詞すべてに共通するルール。つまり、There is[are] 構文を不定詞で書き換える場合も、there は不定詞の意味上の主語に見立てられ、

for there to be+名詞

という形になる。動名詞で書き換える場合でも

there being+名詞

と、there は動名詞の直前(つまり意味上の主語を置く位置)に置かれる。